

# 5 高齢者のくらし

## 高齢者人口は減少。一方、総人口に占める高齢者人口の割合は29.1%と過去最高

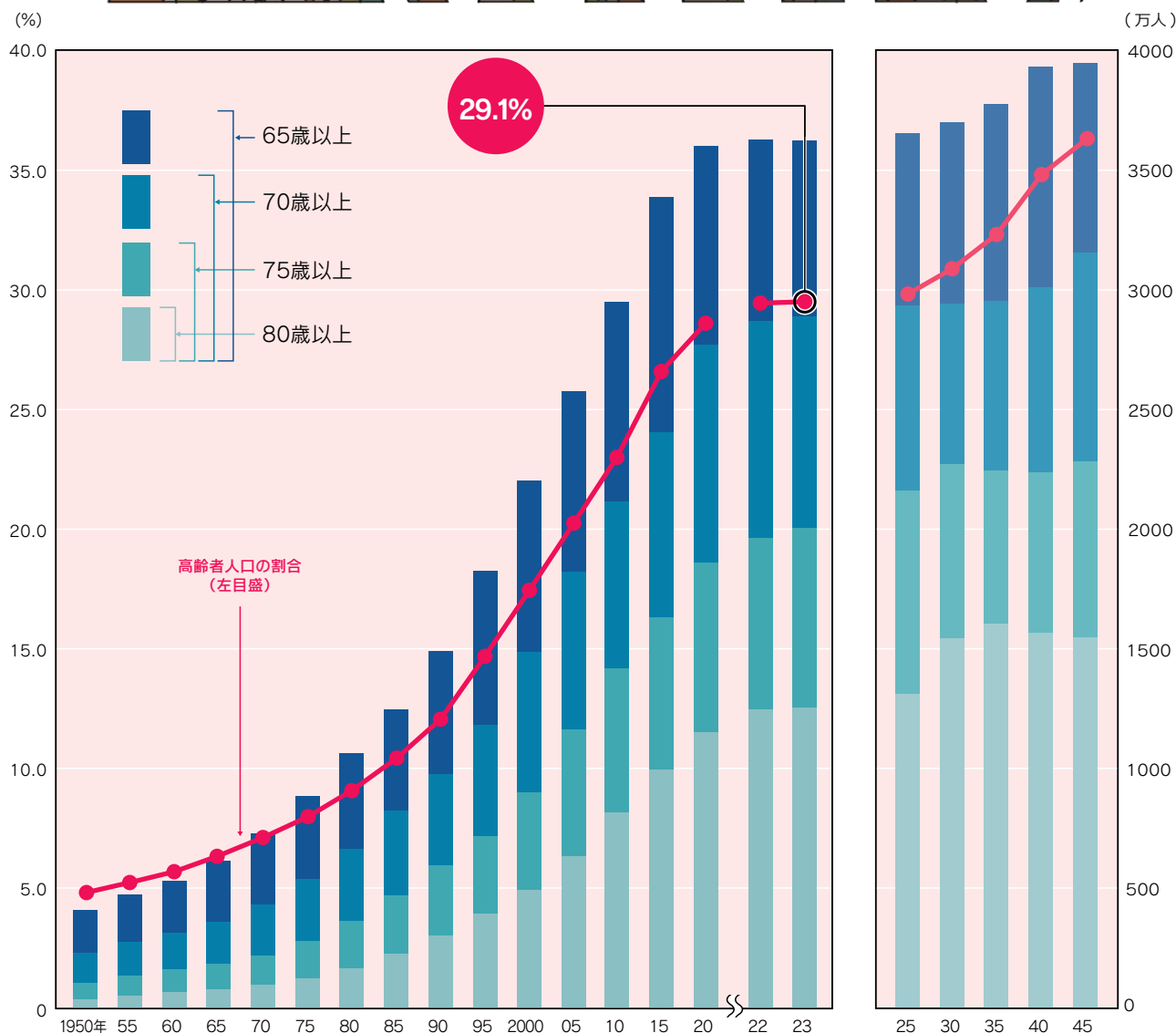
### 高齢者人口及び割合の推移(1950年~2045年)

2023年10月1日現在の高齢者(65歳以上。以下同じ。)人口は3622万人と、前年に比べ1万人減少し、1950年以降初めての減少となりました。

一方、総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950年以降一貫として上昇が続いており、1985年に

10%、2005年に20%を超え、2023年は29.1%となり、過去最高となりました。

この割合は今後も上昇を続け、第2次ベビーブーム期(1971年~1974年)に生まれた世代が65歳以上となる2040年には、34.8%になると見込まれています。

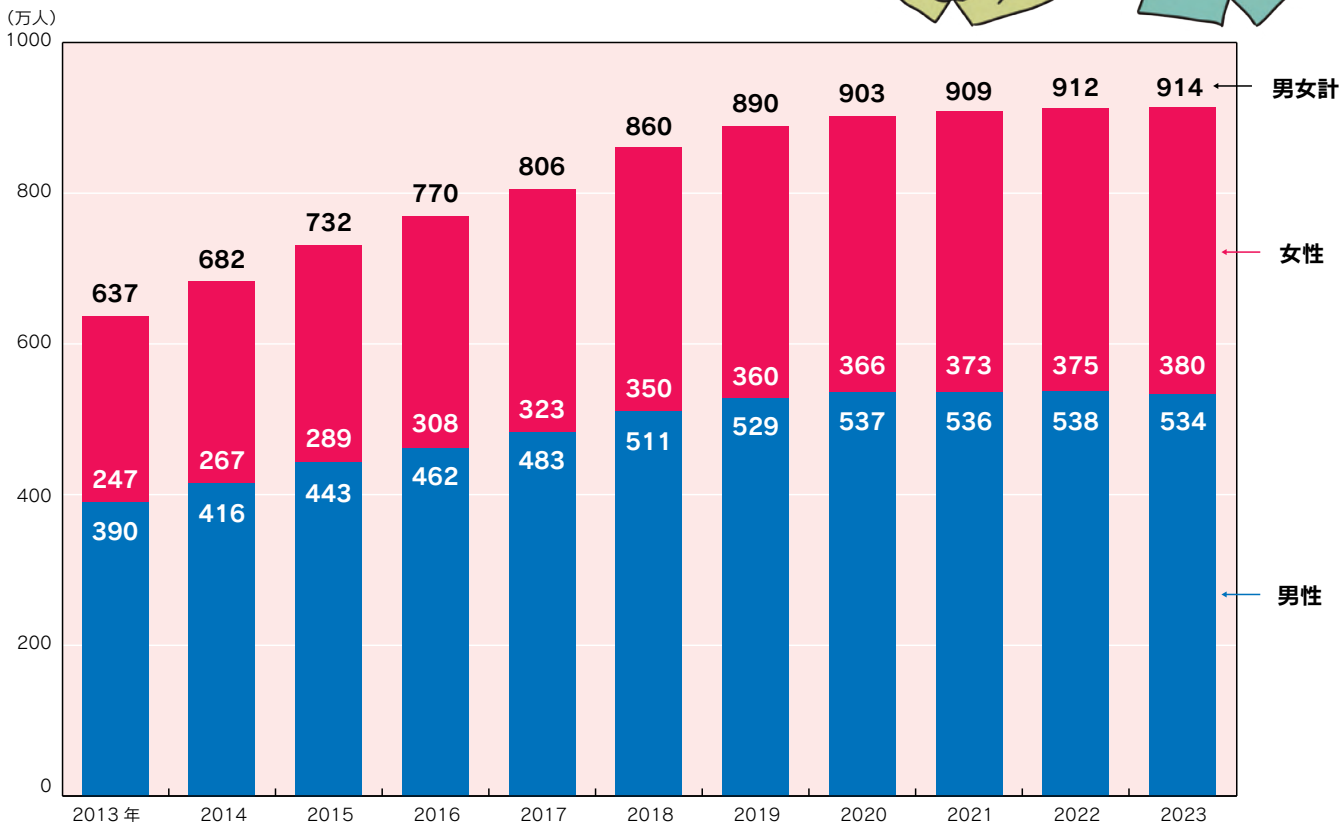


注1: 国勢調査による人口及び割合は、2015年までは年齢不詳をあん分した結果、2020年是不詳補完結果  
 2: 1970年までは沖縄県を含まない。  
 3: 2023年人口推計は概算値  
 資料: 1950年~2020年は「国勢調査」、2022年及び2023年は「人口推計」  
 2025年以降は「日本の将来推計人口(令和5年推計)」出生(中位)死亡(中位)推計(国立社会保障・人口問題研究所)から作成

# 高齢就業者数は、20年連続で増加し 914万人と過去最多

## 高齢就業者数の推移(2013年～2023年)

2023年の高齢者の就業者<sup>※1</sup>数は、2004年以降、20年連続で前年に比べ増加し、914万人と過去最多<sup>※2</sup>となっています。



※1 就業者とは、月末1週間に収入を伴う仕事を1時間以上した者、又は月末1週間に仕事を休んでいた者

※2 比較可能な1968年以降

注：数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

資料：「労働力調査」(基本集計)

## 70歳以上で多いサプリメントなどの支出

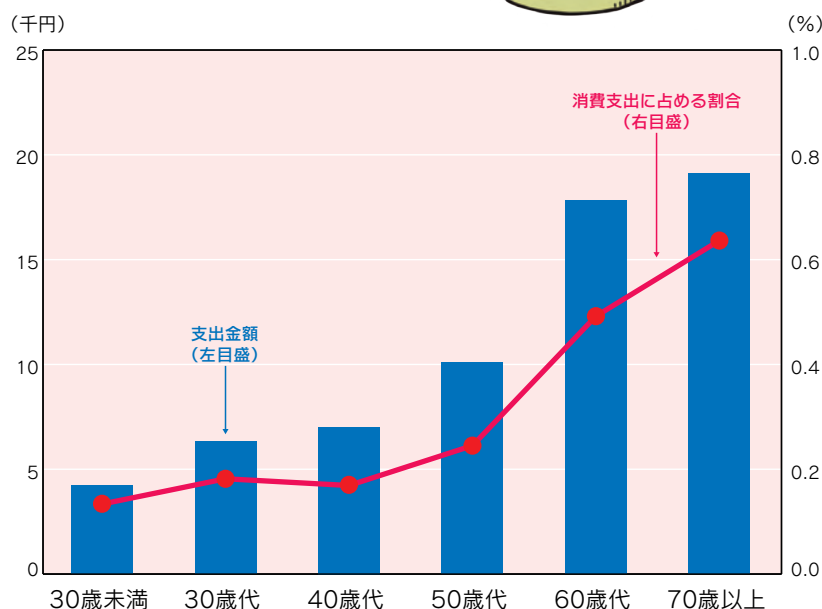
### 世帯主の年齢階級別1世帯当たり年間の健康保持用 摂取品の支出金額(2023年)-二人以上の世帯



二人以上の世帯についてサプリメントなどの「健康保持用摂取品<sup>※</sup>」の支出金額をみると、70歳以上の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の4.5倍になっています。また、消費支出に占める「健康保持用摂取品」の割合も70歳以上の世帯が最も高くなっています。

※ 青汁、ローヤルゼリー、サプリメントなど

資料：家計調査結果



特集

調査の結果からわかること

統計情報の利用について